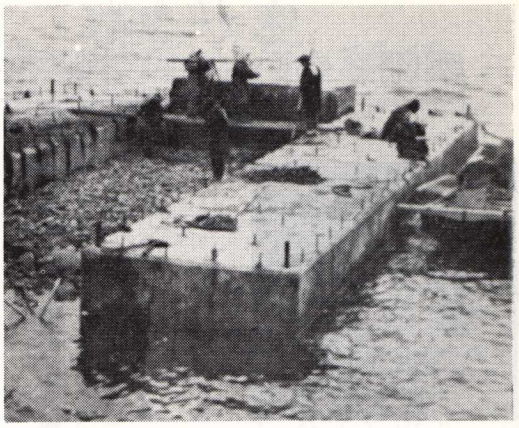


留萌市史------⑮

港づくりに活躍した人びと

五十嵐家二代にわたる港づくり

留萌港築港計画の着手および留萌線開通実現の基を築いた人々には全町民と多くの応援者・指導者がいるが、中核をなした代表者をしぼってみると、技術面では広井勇（先月号で紹介）・林千秋・政界では原敬、そして民間では五十嵐億太郎の四人をあげられるだろう。

■ **林　千秋**（元築港事務所長）

林千秋は大正四年八月から昭和四年一月まで満十三年間、留萌築港事務所に勤務した。

この間、二年ほど小樽築港の兼務をしたが、そのほとんどは留萌港築港工事に従事し、技術的全生命を、難工事といわれた留萌築港に打ちこんだといっても過言ではない。

彼は大正四年に東大卒業と同時に広井博士の一言で北海道へ渡ってきたのである。

来道第一歩、まず函館の夜景の美しさにうたれ、札幌のアカシヤに眩惑さえ覚えたという。

この心境下で留萌行の辞令を受け、宿命の大業を背負ったのである。

大正七年に早くも所長となり、工費一千万円にのぼる国家的大事業で、その上、世界の三大波高を誇る荒海の難工事を一手に引き受けた。

■ **原　敬**（元内務大臣）

政界においての原敬（政友会総裁・宰相）の人物、閲歴について今さらのべる必要もないが、明治四十三年、第二十六議会において留萌からの陳情に対しては厚意をもち（留萌築港予算の可決）、国家百年の計に確固たる信念をもっていたことが想像される。

明治四十年の夏、内相として二十六年ぶりに来道した原敬が留萌を訪れた。

■ **五十嵐億太郎**

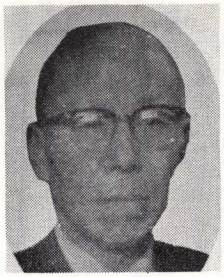
明治三十六年、留萌は勿論、天塩管内で一、二を誇った五十嵐綱治は、養子億太郎を枕もとに呼び「わが五十嵐家は漁業を基として今日を築いた。このことは郷土留萌のお蔭である。

しかし、留萌づくりはこれからであり鉄道も港湾もこれからである。新しい漁業を始め、郷土の事業を立派にやってくれ。」と静かに目をとじた。

億太郎はマサリベツに牧場を、そして漁場の開発努力、その雄渾な構想は人びとの意表をついた。

公人としては、留萌町会議員あるいは北海道会議員として大いに気をはいた。

また、私財を投げうち、家庭を犠牲にして、もっぱら留萌町の発展に努力し、明治四十三年の国有鉄道の開通、昭和八年の港湾修築が着工以来二十四年の歳月を経て完成されたことは、億太郎の一貫した信念と努力によって成しとげられたといえよう。



林　千秋

原　敬

五十嵐　億太郎

■**新刊・文芸**　**栄光の岩壁**　新田次郎／**倭王の未裔**　豊田有恒／**北国抄**　原田康子／**中世炎上**　瀬戸内晴美／**残像**　三浦綾子／**女の部屋**　立原正秋／**勝海舟**　子母沢寛／**波まくら幾たびぞ**　豊田穣／**愛の絶唱**　コンチニ／**地獄鉤**　伊藤信／**ぐうたら交友録**　遠藤周作／**国盗り物語**　司馬遼太郎／**海は愛もなく冷たく**　グレベル／**喪失の儀礼**　松本清張

■**実務教養書**

子どもをだめにした親たち　深川道子／**昆虫という世界**　朝日新聞／**人脈北海道・市町村編**　北海道新聞／**海外文通のしかた**　創元社／**日本野球創世記**　君島一郎／**写真でわかるシイタケ栽培**　日槍連

■**新1年にすすめたい絵本**

文字を覚えたばかりの1年生は本を与えても字をおっていくのがせいいっぱいです。新しい本を与える場合は、子どもと一緒に見ながら数回読んであげましょう。

■ふうちゃんのお誕生日／ゆきごんの贈り物／ロシア民謡てぶくろ／ねしょうんべん物語／モチモチの木／花さき山／グリム童話・ブレーメンの音楽隊。

■**休かん日**　各日曜日／6日／13日／20日／27日／月末

昭和48年5月号／編集・発行　留萌市企画広報室／印刷　留萌印刷株式会社